

令和2年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「衣を正し、時を守り、場を清める、そして自分を磨く」の教育方針のもと、社会で通用する規範意識を醸成する。また、もう一つのキーワード「脳力開花」を掲げ、激動の社会で力強く生き抜き、生涯を通じて学び続ける力を高めようとする姿勢を育む。

- 1 基礎学力を確立したうえで、希望する進路先において論理的かつ科学的な発想ができるように思考力、判断力、表現力を育成する。
- 2 特別活動や課外活動の活性化に力を注ぎ、自発的な行動力、創造的な企画運営力等を伸ばし、将来社会生活で活かすことができる資質を育成する。
- 3 挨拶励行・時間を大切にす・整理整頓実行・清潔な着衣など、社会人として通用する基本的な規範意識を定着させる。
- 4 寄り添いの姿勢とカウンセリングマインドを備えた指導を重視し、生徒や保護者から信頼され、安心して学ぶことができる学校となる。
- 5 全ての生徒が他者理解や思いやりの心を持つとともに、自らを大切にし、夢や志を持って新しい社会を切り拓く態度を育成する。

2 中期的目標

- 1 社会で通用する基礎学力の定着と、希望する進路実現のため自ら学び続ける意欲や態度を養う。
 - (1) 授業形態の工夫やICT機器の積極的な活用とともに、生徒の実態に応じた主体的・対話的な深い学びを促し、よりわかりやすい授業構築に向けて改善を進める。授業のキーワード「脳力開花 解る 創る 伝える」を推進する。
 - (2) 大学進学希望者の増加をふまえ、早い段階で意識づけができるようガイダンス機能を充実させるとともに、さまざまな受験方式に対応する学力の充実を図る。令和4年度までに大学短大進学率35%を達成する。(H29:28.9% H30:25.6% R1:34.2%)
 - (3) 「観点別評価」への理解を深めて積極的に導入するとともに、日常の学習活動において、知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度を育成する。
 - (4) 新学習指導要領に準拠したカリキュラムを完成させるとともに、シラバスの更新を進める。
- 2 多様で変化が激しい社会で生き抜くことができる生徒の育成をめざす。
 - (1) 平素の生活指導(服装指導・遅刻指導・美化活動)により、社会人として通用する基本的な規範意識を定着させる。
 - (2) 他者理解や思いやりの心を持ち、自分を大切にする気持ちを育むよう、道徳教育を推進する。そして自らの夢や志を持って社会を切り拓く態度を育成する。
 - (3) 職業観・勤労観の形成を重視したキャリア教育に取り組み、特にコミュニケーション能力の向上をめざす。
 - (4) 生徒会行事や学年行事、部活動を活性化し、学校への帰属意識を高め、明るく元気な学校生活を送ることができるよう支援する。
 - (5) 生徒や保護者への寄り添いの姿勢とカウンセリングマインドを備えた指導体制を確立する。また、外部機関と連携し効果的な支援方法を確立する。
- 3 地域連携と機能的な校内体制の整備、さらに「中学生が行きたい学校」となる。
 - (1) 異なる校種間交流や地域コミュニティとの連携などの機会を設定し、「協働」の意識を醸成する。
 - (2) 出身中学、関係機関との連携を緊密に行い、より深くそして将来の社会的自立を促す生徒指導を実践する。
 - (3) 災害発生時に迅速かつ安全に対応できるよう、市や近隣施設とも連携した訓練を実施し、一人の死者も出さない万全の防災体制を再構築する。
 - (4) ホームページ更新やメールマガジン発信により、保護者や地域からの理解、信頼、協力を獲得できる学校づくりを行い、「中学生が行きたい学校」となる。
 - (5) 教員の人材育成とともに、業務の精選と効率化による適正な勤務体制を確立し、生徒に全力で向かい合える職場となる。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和3年1月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【学習指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業力向上について、自己診断アンケート(教員)の「授業力向上のため、工夫、改善に努めている」が肯定的回答73%と高い結果であった。新カリキュラム導入や観点別評価の更なる理解に向けて、この動きを更に加速させる必要がある。 ・自己診断アンケート(生徒)の「授業がわかりやすい」は、肯定的回答が1年74.2%、2年59.4%、3年71.6%と2年生の理解度が低い。これは毎年の傾向で、1年時は習熟度別少人数授業を行っているため、進級して40人の授業に戸惑うことが原因と推察される。このギャップを改善することは課題である。 <p>【生徒指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遅刻者数については横ばい状態で目標が達成できていない。ただ、厳しい指導で改善していくというより、部活動加入率の向上(R1:40% R2:45%)や、自己診断アンケート(生徒)の「学校へ行くのが楽しい」が69.9%、このあたりの数値を向上させることにより、結果的に遅刻者数等も改善が可能であると考えられる。 ・自己診断アンケート(生徒)の「困った時相談できる先生がいる」が63.1%(R1:53.6%)と上昇している。また、自己診断アンケート(教員)の「生徒の意見をよく聞く」も94.6%と非常に高い。相談体制は充実していると考えられるが、逆に「ここ数年、メンタル面で課題を抱える生徒が増えてきている」と言える。スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー等外部人材とも連携して、生徒相談体制を更に充実させる必要がある。 <p>【学校運営】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ストレスチェック集団分析結果の「職場の健康リスク」値は、年々向上している(H30:107、R1:97、R2:90)。特に今年度は人事異動により部活動指導や分掌業務で他校経験が豊富な教員が増えたことが要因と考えられる。 ・自己診断アンケート(教員)の「組織的に学校運営が行われている」は56.7%(昨年68.0%)と肯定的回答が減少した。業務の整理と適切な分担を進めてきたが、今年度は臨時休業のため勤務日数等も少なくなり、管理職や運営委員会でスピード感を持って決定遂行していく必要があったためであると考えられる。次年度は改善を進める必要がある。 	<p>第1回(7月16日開催)</p> <p>OR2年度学校経営計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・概ね了承であるが、部活動活性化には教員の負担増が伴う。業務を精選する必要がある。 ・就職が100%内定はいいが、早期離職の割合等もしっかりと拾い上げて原因をさぐり、できるだけミスマッチをなくしていく必要がある。ただ、昔と違って一生一社の考えでなくともいいと思う。 <p>○臨時休業について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業式や入学式を行ったのは良かった。生徒・保護者は喜んでくれたと思う。 ・休校は大変だったが、4月から友人関係がうまく作れない状況を何とか工夫していく必要がある。 <p>第2回(12月17日開催)</p> <p>○「脳力開花」プロジェクト進捗状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクター等のICT機器の導入遅れは気になる。守口市の中学校では1人1台の端末を持って授業を受けているのに、高校へ来たら講義式の授業では、学習意欲がわかないのではないかと。 <p>○スマートフォンの校内使用について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時代の流れである。仕事で普通にデジタル機器を使わなければいけないのに、学校の意識は遅れている。いい形で生徒たちがスマホは正しく使えば便利なツールだと感じてほしい。 <p>○昨年度定員割れ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・残念であるが、しっかりと在校生のケアをしていけば、その生徒たちが後輩に守口東の良さを伝えてくれるので、割れることはないと思う。 <p>第3回(2月22日開催)</p> <p>OR2年度学校評価について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学短大進学率を上げたいなら、選ばなければ向上させることは可能である。 ・就職も新型コロナウイルスのため苦戦しているが、門真市の大手電機メーカー工場跡地に大型スーパーマーケットが建設される。かなりの雇用が生まれると思う。しっかり情報を集めておいた方がいい。 <p>OR3年度学校経営計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクターが全教室につけば、非常にわかりやすい授業が実施できる。1人1台のタブレットは先生方もしっかり勉強する必要がある。 ・HP等の記事は生徒に作らせてもいいかもしれない。もちろん先生たちの点検が必要だが。 ・英語圏との交流が将来的には仕事の上で必要となってくるのではないかと。 ・委員の任期は後1年、よろしくお願ひします。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	A 今年度の重点目標	B 具体的な取組計画・内容	C 評価指標	D 自己評価
1 自ら学び続ける意欲や態度の確立と 社会で通用する基礎学力の確立と	<p>(1)基礎学力の定着を図るため。国数英3教科での少人数習熟度別授業を展開する。また、全ての授業において授業形態の工夫やICT機器の活用を進め、主体的・対話的で深い学びを実践する。</p> <p>(2)大学進学希望者の増加をふまえ、ガイダンスを充実させるなど、進学希望が実現できる学力保障、進路指導の取組みを強化する。</p> <p>(3)「観点別評価」への理解を深め、授業に反映させる。</p> <p>(4) 新学習指導要領に準拠したカリキュラムを完成させるとともに、シラバスの更新を進める。</p>	<p>(1)習熟度別少人数授業 ア、1年数学：2クラス3展開 1年英語(英会話)：1クラス2展開 1年国語(国語総合)：1クラス2展開 イ、プロジェクターを全普通教室に配置し、全ての授業において学期に一回は活用する。同様に主体的対話的で深い学びの授業を学期に一回は実施する。</p> <p>(2) ア、教育産業の実力テストを実施 1、2年生は年2回実施 3年生の希望者数を増やす</p> <p>イ、2・3年生を中心に進学講習等を学年主体で取り組み、継続的に受験に向かおうとする気概を醸成する。</p> <p>(3)教員全体での学習会の実施や教科会議等での議論において、観点別評価の定着を図る。 ア、元キャリアCoを校長マネジメントで招聘し、専門的なアドバイスを受ける。 イ、各種検定へのチャレンジ生の増加をめざす。</p> <p>(4) ア、令和4年度からのカリキュラムを編成し、それに合わせたシラバスも完成させる。</p>	<p>(1) ア 少人数授業アンケート結果が国数英全てで85%以上の肯定的回答維持 R1:(数81.5、英90.0、国87.5) イ、教職員の目標設定時に確認し、年度末に達成状況を申告する。また、学校教育自己診断アンケートの「わかりやすい」肯定回答70%(R1:66%)に向上させる。</p> <p>(2) ア、1・2年生ともに結果向上 ABゾーン 春 秋 10人増加 Dゾーン人数を減少させる R1:(1年 13、2年 43) イ、大学進学者数前年度比10%増をめざす。(R1:30%)</p> <p>(3) ア、就職内定率100%を達成(R1:100%) イ、漢字検定・英語検定・情報処理検定等の受験者を10%増やす。</p> <p>(4) ア、カリキュラムとシラバスを完成させ、各教科で次年度の確授業に反映させる確認をする。</p>	<p>(1) ア 3科目とも非常に肯定的回答が多かった。 R2:(数89.1%、英90.9%、国91.1%) () イ・アンケートでICT授業実施状況を申告させたが「実施した」が60%と臨時休業等の影響が大きいと考えられる。() ・「わかりやすい」が68.4%と目標に届かなかった。更に深化を進めたい。()</p> <p>(2) ア 春から秋にかけて向上した。2年生は1weekトライアルを実施し、準備してテストに臨んだことが要因である。(○) ABゾーン Dゾーン 2年 39 39() 59 18() 1年 16 43() 14 7() イ 28.1%と目標を達成できなかった。次年度以降、毎年向上させ3年間で40%をめざす。()</p> <p>(3) ア 87.2%にとどまり、社会情勢による採用控えが考えられる。() イ 漢検(82 59)28%減() 英検(7 18)57%増() 情検(74 113)53%増() ワープロ検定(34 57)60%増()</p> <p>(4) ア 新カリキュラムについてはほぼ完成した。(○)</p>
2 多様で変化が激しい社会で 生き抜くことができる生徒の育成	<p>(1)平素の生活指導(服装指導・遅刻指導・美化活動)により、社会人として通用する基本的な規範意識を定着させる。</p> <p>(2)他者理解と思いやりを備え、自分を大切にできる気持ちを育み、道徳教育を推進する。そして自らの夢や志を持って社会を切り拓く態度を育成する。</p> <p>(3)職業観・勤労観の形成を重視したキャリア教育に取り組み、特にコミュニケーション能力の向上をめざす</p> <p>(4)生徒会行事や学年行事、部活動を活性化し、学校への帰属意識を高め、自発的な行動と達成感をもたらす、自信を深めさせる。</p> <p>(5)生徒や保護者への寄り添いの姿勢とカウンセリングマインドを備えた指導体制を確立する。また、外部機関と連携し、支援方法を向上させる。</p>	<p>(1) ア、遅刻数を減らす。 イ、皆勤者数の増加 ウ、スマートフォン等の適切な使用のための取組みを徹底する。</p> <p>(2) ア、守口東高校アンケートを実施し、悩み等を早期に聞き取り、寄り添い、前向きな姿勢に導く。</p> <p>イ、HR等を有効活用し、正しい人権感覚を磨き、社会で通用する規範意識を身につけさせる。</p> <p>(3) ア、1年生からの進路プログラムを更に充実させる。学校教育自己診断アンケートの「進路指導について」肯定回答を増やす。</p> <p>イ、ポートフォリオの更なる活用と、キャリア・パスポートの様式を決定し、学期に一度担任と面談を通して、自らの適性を知り、進路決定に活かす。</p> <p>(4) ア、始業式や終業式の機会に表彰を行い、各活動においての功績を紹介し、活動に誇りを持たせる。</p> <p>イ、部活動参加率の増加のため、顧問体制の充実とあらゆる場面を通して加入を呼びかけ、校内ディスプレイにより活動内容を紹介する。</p> <p>(5) ア、全教員による相談機能を強化するために支援教育、性についての研修を1回ずつ実施する。 イ、専門的な見地からのアドバイスを受ける、関係機関と連携しながら相談体制を受ける。</p>	<p>(1) ア、遅刻回数年間4500以下 イ、3学年で130人以上(R1:121人) ウ、アンケートの実施 「ルールを守れている」肯定的回答80%以上めざす。</p> <p>(2) ア、「困ったことや悩みがあるとき相談できる先生がいる」の増加58%以上(R1:53.6%) イ、「生命を大切にしている心や社会のルールを守る態度を育てようとしている」の増加75%以上(R1:74.5%)</p> <p>(3) ア、学校教育自己診断 進路指導関係について肯定80%以上をめざす。</p> <p>イ、キャリアパスポートの完成</p> <p>(4) ア、学校教育自己診断アンケート 「本校志望理由、行事や部活」20%以上をめざす。 イ、部活動加入率45%以上に伸ばす(R1:40%)</p> <p>(5) ア、外部講師による教職員研修を2回実施し、アンケートにより成果を確認する。</p> <p>イ、スクールカウンセラーは前年度同様各回5人程度、スクールソーシャルワーカーは6時間2回を有効活用する。</p>	<p>(1) ア 5035人(R1:5608人)と向上したが、目標を達成できなかった。() イ 175人と目標を達成した。() ウ 試行期間を設け、その終了時に教職員にアンケートを実施した結果、80.3%が肯定的回答であった。(○)</p> <p>(2) ア 63.1%と目標を大きく上回った。() イ 83.2%と目標を大きく上回った。人推委と学年が連携し、様々な取り組みを行った。()</p> <p>(3) ア 85.6%と目標を大きく上回った。担任団が丁寧に対応したことが肯定的回答につながった。()</p> <p>イ 1年生については順調に進んだ() 2・3年生については進路・行事関係で時間が確保できなかった。()</p> <p>(4) ア 12.3%と目標に届かなかった。学校見学会等の中止や緊急事態宣言での部活動停止の影響が大きかった。()</p> <p>イ 45.0%と目標を達成した。人事異動により部活動に理解のある教員が増えたことが大きい。(○)</p> <p>(5) ア 教職員アンケートの自由記述欄では、肯定的回答が多く見られた。(○)</p> <p>イ スクールカウンセラーについては予定していた回数以上の利用があった。スクールソーシャルワーカーについては、教育庁から追加2回の配当を受け、有効活用できた。()</p>
3 地域連携と校内体制の整備 さらに「行きたい学校」へ	<p>(1)異なる校種間交流や地域コミュニティとの連携と交流機会を設定し、「協働」の意識を醸成する。</p> <p>(2)出身中学、関係機関との連携を緊密に行い、より深くそして広がりを持つ生徒指導を実践する。</p> <p>(3)災害発生時に迅速かつ安全に対応できるよう、市や近隣施設とも連携した訓練を実施し、一人の死者も出さない万全の防災体制を再構築する。</p> <p>(4)ホームページ更新やメールマガジン発信により、保護者や地域からの理解、信頼、協力を獲得できる学校づくりを行い、中学生が行きたい学校となる。</p> <p>(5) 教員の人材育成とともに、適正な勤務体制を確立し、生徒に全力で向かい合える職場となる。</p>	<p>(1) ア、地元中学校との授業見学会等の連携や支援学校との交流を進める。 イ、大学からの出前授業や子ども園との連携を更に進める。</p> <p>(2) ア、出身中学との緊密な連携による生徒指導の充実 イ、入学前に中学校や関係機関との連携を図り、寄り添いの指導を進める。</p> <p>(3) ア、守口市の危機管理室と連携し、マニュアルを再点検し教職員に対応を周知する。</p> <p>イ、メルマガを利用した安否確認体制を導入し、有事の際にも迅速に安否確認ができるようにする。</p> <p>(4) ア、ホームページのタイムリーな更新 イ、校門横電光掲示板に、タイムリーに発信する</p> <p>(5) ア、時間外勤務を減少させるため、校務を精査し、業務量を削減する。 イ、一斉退勤日やノークラブデーの更なる徹底を図る。</p>	<p>(1) ア、地元中学校への出前授業 3校 支援学校との連携維持 イ、大学出前授業参加者(R1:15人)を10%増加する。</p> <p>(2) ア、1年生による母校訪問 全校 イ、入学前中学校訪問数 全校</p> <p>(3) ア、通常の防災訓練に加え、教職員のみでのマニュアル確認を行う。 イ、教職員・生徒登録100%をめざし、発信訓練を一度行う。</p> <p>(4) ア、学校教育自己診断アンケートの「HPや携帯メルマガで「学校の様子がよくわかる」に対する肯定的回答67%以上をめざす。 イ、常にタイムリーな内容を掲示する。</p> <p>(5) ア、運営委員会のペーパーレス化とメール等を活用し、職員会議を勤務時間内に終了することをめざす。 イ、部活動実施計画を確認、適切な活動内容であることを確認する。</p>	<p>(1) ア 新型コロナウイルスのため全て中止となった。() イ 教頭と進学担当が連携し、大学数は4学に、参加者は79人と大幅に向上した。()</p> <p>(2) ア 新型コロナウイルスのため全て中止となった。() イ 全校訪問することができた。(○)</p> <p>(3) ア 守口市との連携は進み、マンホールトイレ等の設置を確認した。マニュアル確認は新型コロナウイルスのため中止、防災訓練も避難経路確認にとどまった。() イ 教職員・生徒とも100%登録し、保護者も60.5%登録された。休校連絡の際大いに活用した。(○)</p> <p>(4) ア 71.4%と大幅に向上した。臨時休業等の際に活用したことで、評価が向上したと考える。(○) イ、年間通して学校見学会等の案内をし、その合間には校訓を表示した。(○)</p> <p>(5) ア ペーパーレス化は、新型コロナウイルス対策で蜜を避けるため校長室から会議室に移動したため、プロジェクターが設置できなかった。() 職員会議は概ね時間内に終了した。() イ 実施計画は顧問が確実に提出するようになった。(○)</p>